

## 神戸アートビレッジセンターのリニューアルについて

### 1. 検討の背景

神戸アートビレッジセンターは、阪神・淡路大震災直後の平成8年(1996年)、市民を取り巻く芸術・文化の発展を図るとともに、地域の振興に寄与する事を目的に開館した。

同施設はこれまで、特に小劇場系演劇や現代美術のアーティストの発掘・育成に寄与し、アート界では評価を受けてきた一方、地域振興に十分な役割を果たしたとは言い難い面がある。令和3年で25年を迎えた事を機に、時代に即した機能へと見直しを図り、アーティストやアートに関心がある人々だけでなく、地域の方々をはじめ多様な市民にも日常的に利用される施設とするため、リニューアルを実施する。

### 2. 位置図



### 3. 現状分析 (施設利用状況および周辺人口動態)

#### ○施設利用率(H30年度)

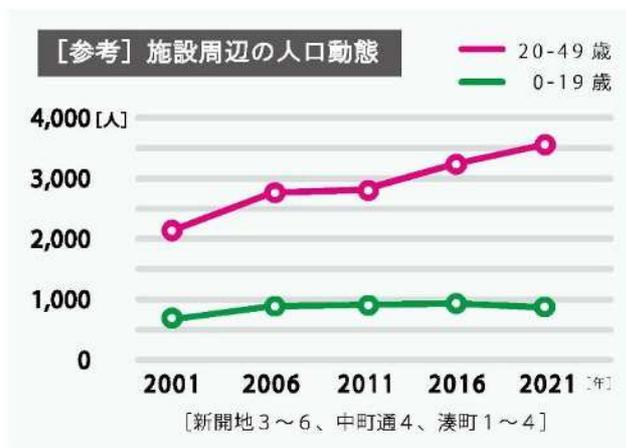
47.4%

#### ○施設利用者(H30年度)

約 176,000 人/年

#### ○周辺人口動態

施設周辺の人口が増加傾向にあり、中でも子どもおよび単身者も含め子育て世代が増加している。



#### 4. 市民アンケート・実験イベント・検討会の実施

ネットモニターアンケートや近隣住民アンケート、現地での実験イベント(こども図書コーナーおよび中高生のための自習室)等を通じて市民の皆様から頂いた意見に加え、地域住民等で構成する検討会で委員の皆様から頂いた意見を踏まえ課題の抽出および具体的な見直し策について検討を行なった。検討会については、多角的な視点で検討するため、地域関係者、教育関係者、行政等で検討委員を構成する「神戸アートビレッジセンター地域活性化機能検討会」を発足し、令和3年4月から10月にかけて6回開催した。



[写真 | 実験イベントの様子]

夕方以降は子育て世帯の利用が少ないことから、昼間は子どもが利用できる場所でありつつ、夜は大人の利用にも対応できる多様性が必要といった具体策検討につながった。

#### 5. 検討会、市民から得られた意見・課題

- 1階が暗い
- 何をしているか外から見てわかりにくい
- 子育て世帯を呼込む仕掛けの不足
- アートを通じた教育の場にしてはどうか
- 認知度が低い
- トイレが老朽化している
- アーティストの支援
- 周辺施設との連携
- アートの場を守る
- 地域に開く                      など

#### 6. 課題解決のための機能見直し策案

- 入りやすさ・利用しやすさ
  - ・地域の人々や同好の仲間が集う空間
  - ・特徴あるカフェ
  - ・オープンアトリエ+アート作品の設置
  - ・トイレの美装化+オムツ替えスペースなど
- 子育て世帯へのアプローチ
  - ・こども向けのアート教室
  - ・ブックコーナー、ペイントスペースなど
- アーティストの支援
  - ・作品販売、貸シアトリエなど
- 利用効率の最適化
  - ・シアターをギャラリーに機能変更
  - ・会議室での各種講座の実施
  - ・利用率の低い部屋の活性化
  - ・シルクスクリーンアトリエの積極活用
  - ・アトリエを一部倉庫化など
- 来館する目的をつくる
  - ・アート教室やスタジオを拠点にチームでの作品制作
  - ・講師を顧問に、センターで制作活動等に取組む「部活動」の設立など

## 7. 機能見直しの方針案

「明日ものぞきたくなる、まちとアートをつなぐ存在に。」

子どもから大人まで。新開地のリビングルームは創造空間にもつながっている。

## 8. 改修・運営案

	現況	整備後
地下 1階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シアター</li> <li>・スタジオ1・2・3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ギャラリー(シアターからの転用)</li> <li>現ギャラリーでは難しい閉鎖空間での展示が可能</li> <li>・スタジオ1・2・3</li> <li>映像制作機能など柔軟な活用を検討</li> </ul>
1階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスペース</li> <li>・ギャラリー</li> <li>・飲食店舗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスペース、飲食店舗</li> <li>多様な世代が立寄りやすい空間</li> <li>・子どもスペース、授乳スペース</li> <li>日中は子育て世代向けのスペースとして活用し、夜などはコミュニティスペースと一体的に大人も活用する</li> <li>・事務室(スタッフを1階と4階で半数ずつ配置)</li> <li>利用者とスタッフがコミュニケーションをとりやすくする</li> <li>・芸術家支援スペース</li> <li>制作や展示など多様な使い方で芸術家を支援する</li> </ul>
2階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KAVC ホール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KAVC ホール</li> <li>音響設備のデジタル化改修</li> </ul>
3階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アトリエ1・2</li> <li>・会議室1・2</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アトリエ</li> <li>廊下側から室内の活動が見える化</li> <li>・会議室1・2</li> <li>廊下側から室内の活動が見える化</li> <li>・倉庫</li> </ul>
4階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサル室1・2</li> <li>・事務室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサル室1・2</li> <li>・事務室(スタッフを1階と4階で半数ずつ配置)</li> </ul>
各階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ</li> <li>洋式化含む美装化</li> </ul>

## 9. まちと連携した施策案

- まちなかでのアート体験
  - ・音楽関連イベント
  - ・ミューラルアートなど
- アーティスト活動支援
  - ・作品制作や販売場所の提供など
- 地域団体との連携
  - ・マルシェなど
- 周辺施設との連携
  - ・喜楽館、新開地劇場など
- 若手芸術家の活躍の場
  - ・落語家の子ども向け講座など

## 10. 条例改正検討項目

- 施設名称の変更
- 設置目的をより地域活性化に向けたものに変更
- 機能見直しによる部屋の名称変更
- 運営実態に即した料金設定への変更

## 11. 改修にかかる予算案(R 4)

事業費：184,429 千円

内訳) 国費： 91,872 千円  
一般財源： 24,557 千円  
市債： 68,000 千円

## 12. 想定スケジュール

R 4 年 2 - 3 月 設計・施工事業者公募  
4 月 設計・施工事業者選定  
6 月 条例改正  
10 月 改修工事開始  
R 5 年 3 月 改修工事竣工  
4 月 リニューアルオープン